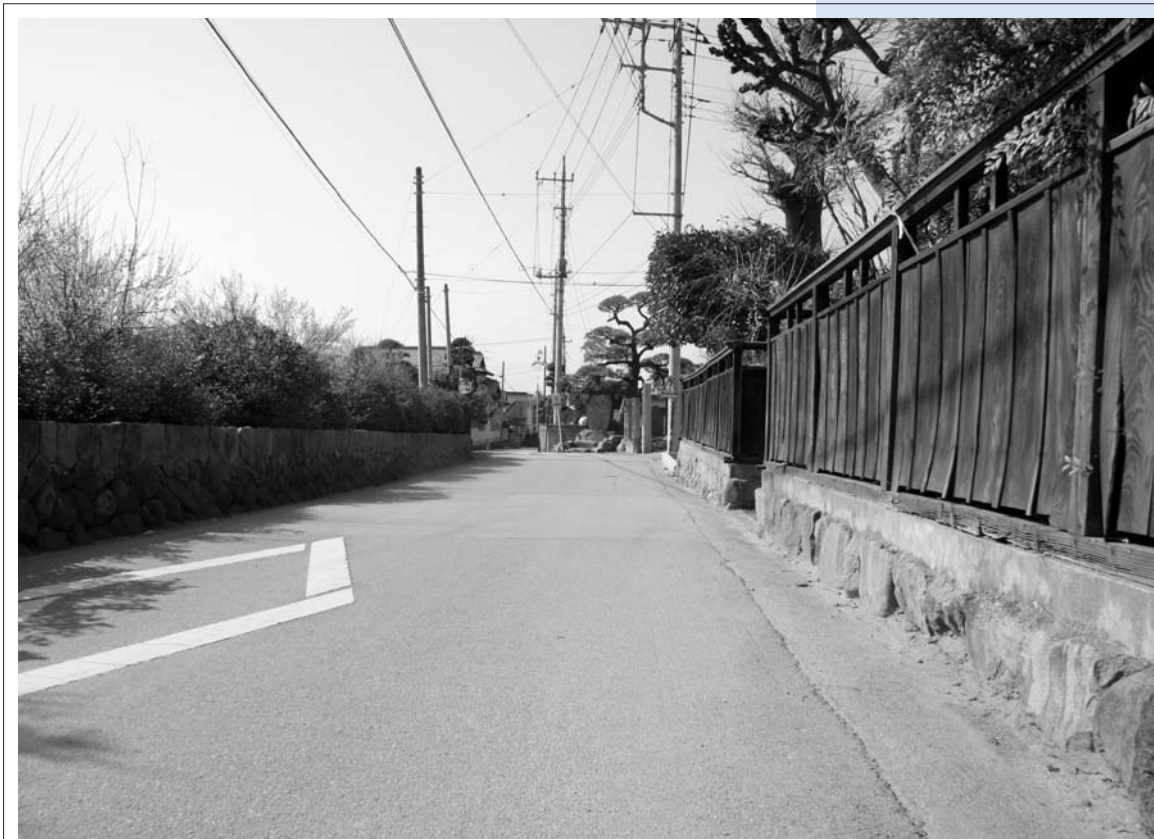


シリーズ

## ／笛／吹／市／探／訪／

第1回

## 県立博物館周辺に残る歴史的風景



成田地区の風景

「かゆうどの 嫁にはなまじ  
ことからし 甲斐のみさかを  
よるやこゆらむ」

この歌は古代の甲斐国の様子を伝えるものとして時折紹介されていますが、この歌を当時の甲斐の国はあまりに寂しいところだと解釈するか、中央の人々によく知られている地域と解釈するかはそれぞれの判断でしょう。しかし、今から1000年前、今と違って情報伝達の方法が少ないなかで、甲斐の国については多くの記述や記録が残されています。その甲斐の中心にあたる地域が甲斐国府や国分寺、国分尼寺を有する現在の笛吹市一帯でした。

この地域が甲斐の中心として栄えた背景には御坂路、若彦路、中道往還などの古道の存在があります。このシリーズでは、笛吹市に伝わる文化財、伝承、まつりなどを紹介しつつ、わたしたちの笛吹市を再発見していただくきっかけづくりをしていきたいと思えます。

県立博物館周辺

道は時代とともにルートを変え、その性格も変えていきます。石和町市部の石和八幡神社付近で甲州街道と合流する鎌倉街道（御坂路）はかつては甲斐国府と結ぶ官道として栄え、鎌倉時代には甲斐と鎌倉を結ぶ軍用道路としての性格を持つようになりました。江戸時代に入ると東海道と甲州街道を結ぶ脇街道として人物、物資の往来はますます盛んになっていきました。鎌倉街道周辺を歩くと、かつての主要街道の賑わいを伝える名残がこここにみられます。

石和八幡神社から現在の旧20号線を挟んだ向かいの路地、通称黒駒横丁から笛吹川を渡り、石和高校北側から長塚交差点に至るまで、ゆっくり歩いてみて下さい。道の脇に幾つかの石造物を見ることが出来ます。それらは道祖神であったり文字の刻まれた道標であったりします。道標の文字を読むと、目的地との位置関係がおかしいものがあります。それらは本来の位置から移動されてしまったものです。あたりの路地を散策しながら、道標が本来立てられていた場所を探すのも面白いでしょう。

県立博物館の東側には東日本最大の

M I S A K A J I



木造阿弥陀如来立像

東日本最大の横穴式古墳「姥塚」

石和高校付近の道標

国衙跡

横穴式古墳姥塚があり、甲斐の国府があったとされる国衙の地名が残ります。その両者を支えた経済基盤が中央道建設に先立って発掘調査された二之宮、姥塚遺跡の大集落です。御坂町国衙から御坂町成田にかけての帯には木造阿弥陀如来像で知られる九品寺（くほんじ）、木造不動明王立像で知られる正法寺（しょうぼうじ）などの由緒ある寺院があります。また、かつて寺院があったとされ、布目瓦という古代の瓦が出土する半行寺という地域があり、最近では平安時代のうるしを溜めた容器や文字が書かれた土器片が多数発掘されました。また、福泉寺城というお城があったといわれる場所もあります。

今回は県立博物館周辺エリアを紹介しましたが、周辺は道ばたの石造物や家並みなど多くの文化財や歴史的な景観が残っています。これらを体験するには周辺をゆっくり歩いてみることをお勧めします。

今後もこのシリーズでは、みなさんが地域を再発見するためのヒントになるような情報を提供していきたいと思えます。この広報紙を片手に、多くの方々博物館周辺を歩いている姿を想像しながら…

今回は境川町地区を紹介します。

笛吹市教育委員会 社会教育課